

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	橋りょう補修事業			事業コード	1441
所属コード	081000	課等名	建設部 道路管理課	係名	維持係
課長名	近藤 春彦	担当者名	荒屋 洋介	内線番号	2718
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系（旧）	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	快適な居住環境の実現	コード	3
	基本事業	生活道路環境の向上	コード	1
予算費目名 (H26)	一般会計 8 款 2 項 5 目 橋りょう維持補修事業（001-01）			
特記事項				
事業期間 (H26)	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	不明年度
根拠法令等 (H26)	道路法			

(2) 事務事業の概要

橋りょうの補修，補強，塗装等を実施し，耐久性の向上と道路交通の安全を図る。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

主要河川の合流点を中心に市街地が形成される本市においては，昭和初期以前に架橋され現在に至るもの，また高度成長期（昭和 40 年前後）に架橋された橋梁が多く，近年これらの老朽化が顕在化しており，補修や延命処置の必要が生じている。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

高度成長期に架橋された橋梁が耐用年数を迎える状況にあるが，補修対応が遅れており，危険性が増している。今後益々既設橋梁の老朽化が進むことから，補修の必要性は増大する一方である。また，近年大規模な地震により災害が発生しているが，本市で耐震補強の完了している橋梁はごく僅かである。このような状況は全国的に共通しており，平成 15 年 4 月に国土交通省道路局より「道路構造物の今後の管理・更新等のあり方に関する提言」が出されている。この中では構造物は資産としてとらえ，状態の客観的把握・中長期的状態予測・効果的な対策（アセットマネジメント）の導入が提唱されており，平成 21 年度から橋梁点検における地方公共団体を対象とした補助制度要綱が制定されている。本市では平成 21 年度から橋梁点検を実施し，平成 23 年度に橋梁の長寿命化修繕計画を策定した。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が，何が対象か）

過年度の一次点検（目視，委託）で詳細調査，補修が必要と判断された「橋りょう」

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 補修工事を予定する「橋りょう」数	橋	1	1	1	4	1
B						
C						

（3）26 年度に実施した主な活動・手順

補修工事を予定していた橋梁のうち，浅岸橋，御厩橋及び 2－1 号橋の工事発注を行い，浅岸橋及び 2－1 号橋について，契約繰越を行うとともに，御厩橋について，未契約繰越により来年度再発注を行うこととした。谷地頭人道橋については，鉄道上に架設されている橋梁であることから，I G R いわて銀河鉄道へ工事委託を行い，補修工事を完了させた。

また，橋梁長寿命化修繕計画に基づき，翌年度以降補修工事を行う 6 橋の補修設計を行うとともに，来年度補修を行う橋梁について，各関係機関との協議を行った。

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 補修工事を予定する「橋りょう」数	橋	1	1	1	9	1
B						
C						

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

補修整備することにより，重大な事故（落橋）の未然防止と，生活道路の機能・安全確保を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 事業実施「橋りょう」数	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	橋	1	1	1	9	1
B	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	①国	千円	10,100	7,269	4,547	158,400	51,500
	②県	千円	0	0	0		
	③地方債	千円	0	0	0	120,100	38,000
	④一般財源	千円	8,336	5,950	3,723	13,500	4,285
	⑤その他()	千円	0	0	0		
	A 小計 ①～⑤	千円	18,436	13,219	8,270	292,000	93,785
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	400	500	600	700	800
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	1,600	2,000	2,400	2,800	3,200
計	トータルコスト A+B	千円	20,036	15,219	10,670	294,800	96,985
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

結びついている

理由：当市は河川合流点を中心に市街地が形成されており，これらに架かる橋梁は生活道路として，また災害時の緊急避難路としても重要であり，橋梁の安全確保は重要である。

② 市の関与の妥当性

妥当である

理由：法定事務である。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である

理由：法定事務である。

④ 廃止・休止の影響

影響がある

その内容：安全な通行が困難となり，市民生活に影響が生じる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上余地がない

理由：限られた予算内での最低限の維持・補修である。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

特定の受益者はいない

(4) 効率性評価

費用対効果を上げる方法はない

理由：長寿命化修繕計画を策定し，計画的に補修することにより、コスト縮減に取り組んでいる。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	快適な居住環境の実現	コード	73
	小施策（推進項目）	生活道路環境の向上	コード	731

(2) 改革改善の方向性

目的妥当性評価や有効性評価等が明確であり，現状維持とする。

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

策定した「長寿命化修繕計画」を進めるため、事業費を確保する必要がある。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

当事業は、老朽化により補修が必要な橋梁について橋梁長寿命化修繕計画に基づき実施するとともに26年度改正された道路法により、5年後毎に橋梁の点検が義務付けられたことから、今後とも適切に管理する必要がある、必要な事業である。